

## 支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

## 東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

## 台湾電力発電事業に貢献

～松木幹一郎氏の功績～

皆さんは、台湾電力発電事業に貢献した松木幹一郎氏をご存知ですか。桑村郡河原津村（西条市河原津）出身で、東京帝国大学（現在の東京大学）卒業後、逓信省（ていしんしょう）に入省し、通信局、鉄道院等に勤務。その後、東京市電気局初代局長、東京市参与等を歴任し、1929（昭和4）年、当時日本が統治していた台湾の第三代台湾電力社長に就任しました。



松木幹一郎氏  
※『松木幹一郎』伝より引用

社長就任後、第一次世界大戦による資金不足や関東大震災による影響等で工事が中止となっていた日月潭（にちげつたん）の水力発電所建設を再開しました。建設再開当初から、マラリアやアメーバ赤痢などの感染症や経済不況による資金難等、数々の困難に直面しましたが、1934（昭和9）年、当時アジアでは最大規模の日月潭第一発電所（現在は大観発電所に名称変更）を完成させました。

松木幹一郎氏は、台湾では今でも「台湾電力の父」と呼ばれています。



松木幹一郎氏の生家（西条市河原津）

## 丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

## 伝えたい郷土の料理

～丹原町ふるさとの味研究会～

ふるさとの味研究会は、地域の特産物を利用した、安全でバランスのとれた「ふるさとの味」の研究グループであり、現在31人の会員が活動しています。

この研究会は、農村食文化の伝承、地域住民への食育を目的に、自然の素材を利用した山菜加工や保存食作りの技術習得、手作り味噌作り、郷土料理・特産品の研究開発等や地域イベントにも参加しています。



丹原産業まつりに参加

その活動が実を結び、平成15年度には食育コンクールにおいて、優良賞（地域に根ざした食育推進協議会会長賞）を受賞しています。研究会が中心となって作成した郷土料理のレシピ集「21世紀に伝えたい丹原の味」には、特産あたご柿の葉で巻いた「柿の葉ずし」や伝統の味「押しめきずし」、「太秋ずし」など数多くの料理が紹介されています。

今後も当研究会は、丹原でしか味わえない伝統の味と現代の嗜好にあった味づくりを追求し、未来を担う若い世代に普及・伝承していきます。



「21世紀に伝えたい丹原の味」

## 小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

## お山道を照らす優しい灯り

～石土（いしづち）神社の高灯籠～

小松町石根（いわね）地区の国道11号大頭交差点から南に延びる参道は、昔、石鎚山の西の登山口として松山方面からの参拝者が金毘羅街道を経て、この道を通り登っていたことから地元では「お山道」と呼ばれます。



お山道と「石鉄山」鳥居

その沿道の「石鉄山（いしづちさん）」と書かれた鳥居の近くに、ひときわ目を引く石土神社の高灯籠があります。正式名称は式年祭記念燈といい、1931（昭和6）年の神社式年祭

に神社の燈明、またお山道を照らす灯りとして宮司が建設したもので、高さ12メートル、鉄筋コンクリート製の円筒状の灯籠です。2001（平成13）年には国の登録有形文化財に登録されました。

宮司の長敏康さんによると、建設当時、この前を通る子どもたちは灯籠に刻まれた文字を歌にして「♪長（ちょう）、近（こん）、玉（たま）、近（こん）…」と歌いながら通っていたそうです。

地域の人々に親しまれる高灯籠には、今も毎晩灯りが灯され、お山道と人々の暮らしを見守っています。



見上げるほど高く堂々とした姿の高灯籠